

鎌倉材木座樹木葬墓地「月あかり」 墓じまい対策として進化した新樹木葬墓地

千代石(株) (本社 横浜市神奈川区)



墓じまいによる檀家数の減少は、社会現象になりつつあります。千代石では、空き区画に樹木葬をつくるだけでなく、檀家数減少に歯止めをかけることができます。新しいアイデアを採用した樹木葬墓地をご住職様とともに開発。千代石の進化する樹木葬墓地を是非ご覧ください。

時代のニーズに即した永代供養付き墓地として、樹木葬が幅広い年齢層から支持を集めているが、千代石(株)が「供養重視」をコンセプトに展開している「骨壘納骨型樹木葬墓地」(令和五年十二月特許取得)が、特許取得からわずか半年足らずでさらなる進化を遂げている。鎌倉市の妙長寺では、墓じまいによる檀家の流出に歯止めをかける「檀信徒区画」を新設し、墓じまい後の受け皿として、お寺・檀信徒の双方に喜ばれているとのこと。

きっかけは、樹木葬の一般区画を販売したところ、墓じまいする檀家からその区画への改葬を望む声が多く、檀家専用の区画をつくれれば喜ばれるのではないかと住職が考えたからだった。その結果、住職ご夫妻の意見をふんだんに採り入れ、区画名もお二人で考案され、一般区画を「まんげつ区画」、檀家専用の区画を「みかづき区画」と名付けて共同開発することになった。詳細については本号巻頭特集の記事をご覧ください。墓地内で手つかずになっている無縁墳墓の撤去や整備事業などもお寺の主導で進めることができる「檀信徒区画」に進化し続ける同社の樹木葬から、しばらく目が離せない。



石文社取材

千代石では、無縁墓などを整備してできた新しい区画で、骨壘納骨型の樹木葬を開発し、寺院の新しいご縁を作る事業を推進しています。

鎌倉材木座樹木葬墓地 海潮山 妙長寺(日蓮宗)



第1期「星あかり」(完売)



第2期「月あかり」



無縁墓、檀家様の改葬の区画
『みかづき区画』

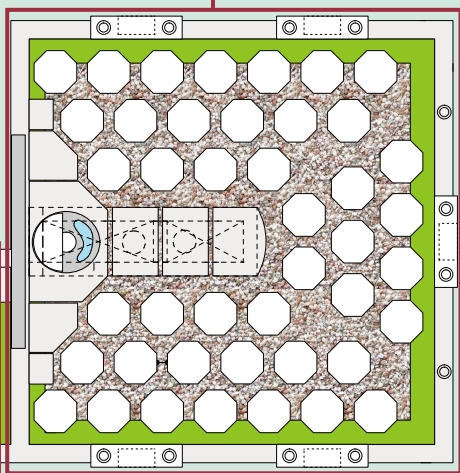
約100霊の納骨が可能



樹木葬の一般区画
『まんげつ区画』43区画



第一期の開発は千代石の主導でしたが、第二期は樹木葬の真髄を会得された妙長寺ご住職と奥様の主導による、お寺様に最も重要な永続的価値を網羅し一大進化した寺院樹木葬として完成致しました。



ご縁のあるお寺様で、運営などを参考にしたい等のご相談もお待ちしております。

お気軽にお問い合わせください。

特許を取得した堅牢構造の樹木葬工事は詳細施工図・部材図・完成予想図等全て弊社一級建築士が担当致しますので、安心してお任せください。

TEL 045-620-8424 (火・水曜定休)

千代石株式会社

〒221-0822神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1-6-15桜ビル906

◎カラーグラビア

御神苑と茶庭と石 庭園美術家 長崎剛志

口絵
8

◎巻頭特集

知っておくべき樹木葬

6

先行する各社の視点

- (株)はせがわ (東京本社=東京都文京区) … 7
- 千代石(株) (本社=横浜市神奈川区) … 12
- (株)キムラ (石のきむら、愛知県尾張旭市) … 18
- ◎特別レポート (株)前方後円墳 (東京都港区) … 22

- 「筑波山塊の花崗岩」/世界のヘリテージストーン (天然石材遺産) に認定 … 27
- (株)日本石材産業協会/お墓ディレクター検定試験の申し込みは、特設サイトで!! … 28
- (株)野口研材商会「石材機械商談会 in つくば 2024 秋」/10月17日(木)~18日(金) … 30
- (株)鳴本石材「なるもと大展示会 2024」/10月22日(火)~25日(金) … 32
- (株)木本石材「秋の大感謝祭」/10月23日(水)~25日(金) … 34
- (株)岡谷石材 (香川県高松市) /伊・Dazzini 社のワイヤーソーを導入 … 36
- 業界ドット読む … 38 □業界カレンダー … 39

◎石彫の未来へ 美大・芸大の現場から [16]

京都市立芸術大学 美術学部 美術科 彫刻専攻 編

彫刻家 佐善 圭 40

◎インタビュー

巨大な石の塊で、世界遺産をつくりたい
庭園美術家 長崎剛志

44

◎どんな建物や史跡、エピソードがあるの？

誌上!! 東京駅周辺「石」めぐりツアー (後)

62

- どうしてウレタンヘッドが売れてるの?? / (株)生田化研社 (本社:東京都豊島区) … 78
- (株)ボイス・ユーザーの声・82 墓石用地震ゲル「泰震」など / (株)石典石材 … 80
- ボンド商事(株)の“お役立ちカワラ版” / お急ぎください! 「目地ふき PRO」新発売セール! … 82
- 日本青年会議所石材部会 / 2024年度第2回通常総会、11月15日(金)に卒業式 (家族参加可) … 84
- (株)沖セキ OK ファイル / エンディング産業展を振り返って、今年2度目の中国出張へ … 86

◎好評連載中

仏仏手帖 鶴飼秀徳 … 88
石塔入門 木下浩良 … 休み

現場石材店のホンネ 池淵良博 … 90
墓を訪ねて三千里 カジボン・マルコ・残月 … 94

石心 … 3 いしぶみ (編集後記) … 96

◎巻頭特集

知っておくべき樹木葬

先行する各社の視点

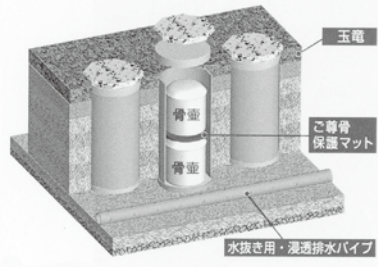
樹木葬が好調に売れている。その勢いは首都圏に限らず、地方にも拡散しており、完売を待たず二期、三期目の開発に着手する動きも見られる。

「それなら、うちも樹木葬を始めよう。植栽した共同墓に石板を配置すればいいんでしょ……」
そんな安易な発想で成功するほど甘い世界ではない。地域初の樹木葬なら一定の需要は見込めるだろうが、それに追隨する同業者や葬儀社らの参入が相次ぎ、やがて供給過多になると販売へ入はたちまちダウンしてしまう。

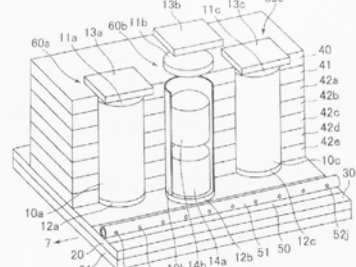
そうした需要の変動を見越して、激戦区でも選ばれる樹木葬をつくるのが望ましい。今回取材した各社の樹木葬は、いずれも樹木葬の魅力や価値を最大限に高めたものであることに加え、お墓を取り巻くさまざまな不安や問題にしっかり向き合っている点でも共通している。また一般墓の販売を活性化させたり、墓じまいによる檀家の流出を防ぐ目的で新設するなど、樹木葬の新たな可能性も見えてきた。さらに、特別レポートとして取り上げた古墳型の樹木葬「古墳墓」は今後の市場動向に影響を与える存在となり得るだろう。

時代に合わせて変化・成長し続ける樹木葬は、いよいよ次のステージに突入しつつある。市場を牽引する各社の取り組みから、その意図を読み取ってほしい。

千代石設計部作成
特許庁認可図面



特許申請事務所作成構造図



今年3月より第2期分として売り出されている鎌倉材木座樹木葬墓地「月あかり」。手前にお孫さんが描いた「おじいさまとおばあさまの似顔絵」を彫刻した微笑ましいお墓も見られる

一般墓の空き区画を十倍以上に活用できる
供養重視の骨壺納骨型「特許樹木葬」が急拡大！

千代石(株)（本社〓横浜市神奈川区）

樹木葬関連のエキスパート集団、千代石(株)（河東田清八郎社長）が供養重視の視点で考案・設計した「骨壺納骨型樹木葬墓地」が快進撃を続けている。鎌倉時代の正安元（二二九九）年創建の古刹で、同社の骨壺納骨型樹木葬墓地を鎌倉市内で初めて採用した妙長寺（第四十四世・神和秀住職）を取材した。



妙長寺第44世・神和秀住職

妙長寺は、日蓮聖人の伊豆法難に際し、鎌倉出船の地に建てられた日蓮宗の寺院。日蓮聖人の弟子・日実上人による開山で、一時は檀家が大幅に減少し衰退の危機にあったが、それを再建したのが先代の塚本英憲住職だった。現在は周辺寺院のなかでも群を抜いて多い檀家数を抱えるまでになっている。

- ① 骨壺のまま納骨できる（基本的に容器の移し替えや粉骨の必要がない）
 - ② 水害の多い日本の気候や地形に適した優れた排水構造を採用（昨年十二月に特許取得）
 - ③ 同社オリジナルの立体型墓石を採用し、そこに家名や戒名、建之年月日などを彫刻することで「唯一無二の石塔」となる
 - ④ 墓じまい後などさまざまな形状の空き区画に対応し、長年未使用だった区画が復活する
 - ⑤ 墓じまい等による離檀者（寺院からの檀家流出）を食い止め、檀家減少の歯止めとなる
- ――以上五点が挙げられる。
- 妙長寺は、この骨壺納骨型墓地構造（特許第7397515号）を採用した鎌倉材木座樹木葬

墓地の第一期販売分を「星あかり」と名付けて二〇二二年春にオープンした。墓地の名称は、同寺とゆかりのある小説家・泉鏡花の短編小説『星あかり』（妙長寺での滞在生活をもとに書かれた作品で、原題は『みだれ橋』）にちなんで命名したものだ。



二〇二二年春にオープンした鎌倉材木座樹木葬墓地「星あかり」（第一期分）。約九カ月で完売となった

鎌倉市とその周辺エリアには、日蓮宗に限らず他宗の寺院も含めると、すでに数多くの樹木葬が開設されており、「ほぼ飽和状態にある」との見方もあったが、販売を開始すると、一般的な樹木葬より長い五十年という使用期限にもかかわらず、当初の予想を大幅に上回るペースで売れ続け、第一期「星あかり」は九カ月で完売。今年春から第二期「月あかり」を売り出しているが、やはり好調な売れ行きで、すでに二十区画が売約済みとなっている。

「千代石の河東田社長とのご縁は、同じ日蓮宗で鎌倉にあるお寺さんからのご紹介がきっかけでした。そこにも人気の庭園型樹木葬があり、その販売を担当されていたのが河東田社長でした」と神住職は説明する。

神住職が数年ほど前、そのお寺の新盆会に式衆の一人として参加すると、参列者が大勢いらして、寺観も立派に整えられて、大いに発展しているようだった。

また檀家数が少子化等で年々減少している問題について、檀家総代（責任役員）と今後の対策を相談するなかで、「これからは新規の信徒



第2期・月あかりの隣接地につくられた檀家専用の区画

管理も最小限で済むようになったという。墓石のかたちは、両墓地ともに同じデザインの立体型墓石で統一されている。国産材（真壁石と万成石）を含む六つの石種が用意されており、家名や戒名、建之年月日などはもちろん、好きな言葉や花模様などを彫刻することができ



大人数の法要で多数の塔婆が上げられる供養スペースも新設されている

る。第二期・月あかりには、お孫さんが描いた「おじいさまとおばあさまの似顔絵」をそのまま彫刻した微笑ましいお墓もあり、心温まる空間となっていた。また第二期・月あかりと隣接する場所に、無縁墳墓や改葬の受け皿として利用できる檀家専

「当山の樹木葬は、宗旨宗派を問わずにお申し込みできるので、基本的に檀家になる必要がありません。また最近では火葬場で直葬するケースが増えており、これまでお寺とご縁のなかつ

「地元で代々自営業を営んでこられた方や新たな事業で成功を収められた方など、男女問わず、鎌倉の文化や歴史を愛する多くの方々にご契約いただいております。またその方を通じて、ご家族や兄弟姉妹、友人などに紹介が広がっていくケースが増えていきます」と担当の田中さんは話す。

「故人様のためにできる一番大きい功德がお塔婆供養である」として、第一期・星あかりの前には、大人数での法要を想定して、日蓮宗のお題目「南無妙法蓮華経」が書かれた石塔の前で多数の塔婆が上げられる両墓地共用の供養スペースも新設された。

「第二期・月あかりには、お孫さんが描いた「おじいさまとおばあさまの似顔絵」をそのまま彫刻した微笑ましいお墓もあり、心温まる空間となっていた。また第二期・月あかりと隣接する場所に、無縁墳墓や改葬の受け皿として利用できる檀家専

管理も最小限で済むようになったという。

「火葬場で茶毘に付された焼骨は、故人様とご縁の深い方から順に、二人一組で箸をもって丁寧にお骨から骨壺に収め、次に上半身、俗に『喉仏』と呼ばれる第二頸椎、そして最後に頭蓋骨をのせて、生きているときと同じような並びで骨壺に収まります。そのようにお骨（尊骨）を大切に扱おうとする考えは、日本古来の埋葬

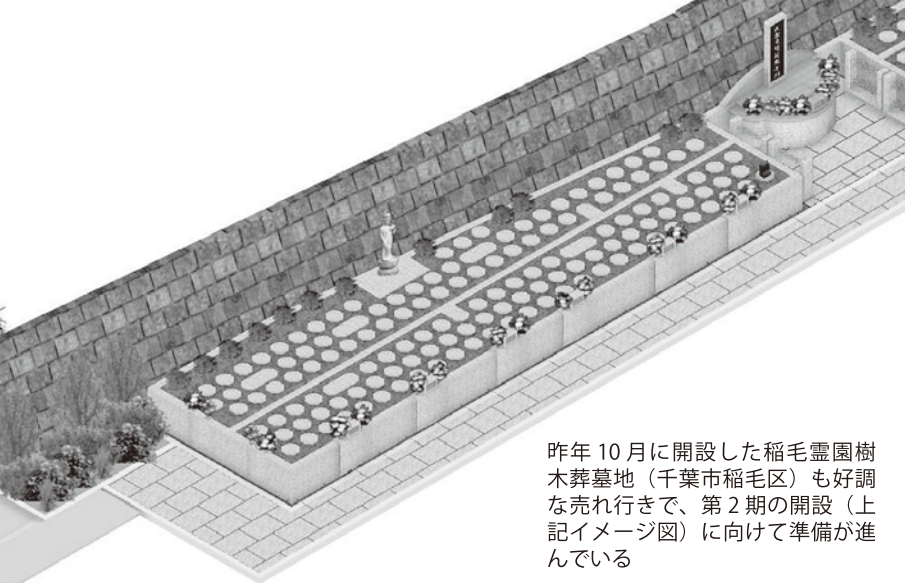
「故人の尊厳を大切に」（供養重視）という千代石の理念が、先代住職の考えと一致していることが大きな後押しとなった。

（非檀家）を増やす必要性がある」と考えていたことに加え、承継者が途絶えた檀家の流出（離檀）を防ぐため、その受け皿となる永代供養墓を早急に整備することも急務となっていた。ちようど本堂の建て替え時に借り入れた債務の返済が終了し、新たな事業を始めようと考えていた矢先でもあった。

法から土葬時代を経て、火葬が主流となった現代にも受け継がれているのではないでしょう。同じ樹木葬でも、納骨時に別の容器にお骨を移し替えたり、粉骨するものもあり、「果たしてこれでよいのか」と釈然としないものがありました。しかし、骨壺のまま納骨できる千代石さんの樹木葬であれば、故人様の尊厳を守ることができ、それによりご家族や先祖祖様の絆を深め、再確認することができると確信したのです」

「故人の尊厳を大切に」（供養重視）という千代石の理念が、先代住職の考えと一致していることが大きな後押しとなった。

「故人の尊厳を大切に」（供養重視）という千代石の理念が、先代住職の考えと一致していることが大きな後押しとなった。



昨年10月に開設した稲毛霊園樹木葬墓地(千葉市稲毛区)も好調な売れ行きで、第2期の開設(上記イメージ図)に向けて準備が進んでいる



数多くの墓石が建ち完売間近となった稲毛霊園樹木葬墓地の第1期区画



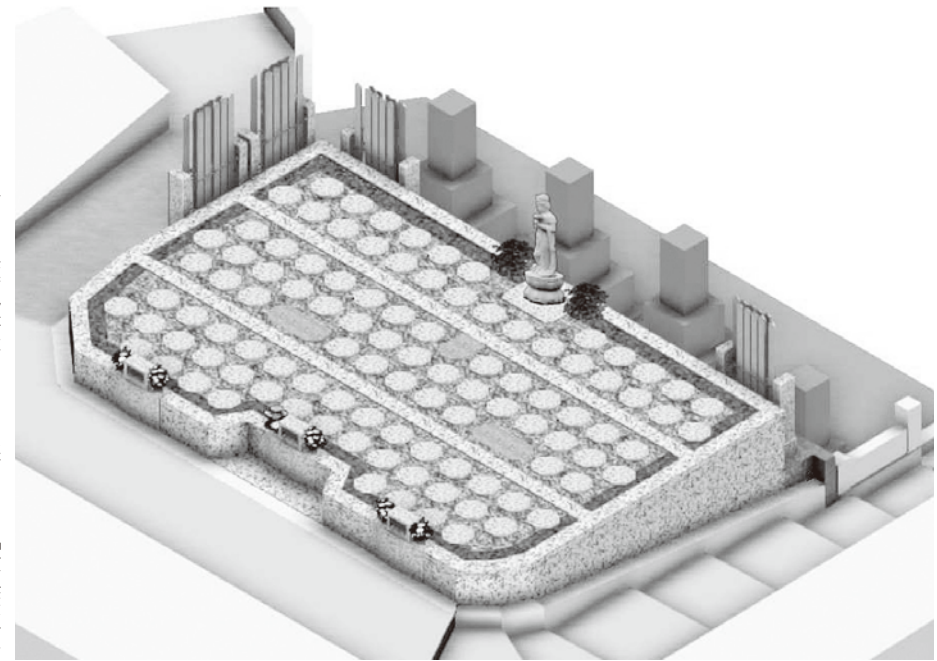
横須賀衣笠樹木葬墓地は、特許を取得した骨壺納骨型墓地構造を第3期販売分(写真上)から採用している

※同社の骨壺納骨型樹木葬に関する記事は、本誌の昨年2月号及び4月号、6月号、10月号に続いて、今年2月号でも取り上げているので、詳細について知りたい方はぜひ再読してください

奈川では今回取材した鎌倉材木座(第一期完売、第二期)のほか、横浜慶珊寺(第一〜二期完売、第三期準備中)、横須賀衣笠(第三期)、湘南茅ヶ崎(第二期)、清水ヶ丘霊園などで販売実績を順調に伸ばしており、県外では千葉県の野田(第二期)、稲毛霊園(第一期が完売間近、第二期に着手)

でも好評販売中。同社が供養重視の視点で考案・設計した骨壺納骨型樹木葬墓地はいずれも快進撃を続けており、その勢いはこれからはしばらく続きそうだ。

◎千代石(株)・本社
 神奈川県横浜市神奈川区西神奈川1・6・15
 桜ビル906
 TEL045・620・8424
<https://www.chiyoseki.jp/>
 ※口絵6〜7頁に同社カラー広告を掲載中



骨壺納骨型墓地構造を初めて採用した「横浜慶珊寺樹木葬墓地」(横浜市金沢区)は、すでに第一〜二期(下二点)は完売となり、第三期目の準備(右記イメージ図)が進んでいる



た方も多くおられます。本来なら通夜や葬儀で故人様のことを思い出しながら自分の素直な気持ち(感謝や反省の念など)を伝えて心を浄化すべきなのですが、それができていない方も多いので、納骨の際は、ご遺族や参列者の皆さんに、そのときの想いや感情を今一度思い出しお別れするようにお話しています。そうすることで気持ちに整理がつき、深い悲しみや嘆きを少し

づつ緩和させることができます。納骨はそういうグリーフケアの大切な機会でもあります。こうしてご供養のことから心のケアまでお寺としてお話しできるのも、お寺にある樹木葬だからこそ可能なのです。千代石さんには本当に感謝しております。したがって、檀家ではない信徒の皆さんに対しても、ご依頼があれば、お寺としての仕事(追善供養や厄除けなど)もできるだけ丁寧に営んでいくつもりです」

神住職はそう話す。今後は合同法要を定期的に実施していく予定だが、今年八月に新盆会を開催したところ、これまでにない大人数の参列者があり大盛況だった。前述の供養スペースにも数多くの塔婆が上げられていた。なお千代石の骨壺納骨型樹木葬墓地は、地元神